

03陸演・03北演

陸演は、平成5年以来、約30年ぶりの大規模演習 北演においては、離島侵攻対処能力を向上



第775号
令和3年12月10日

要望事項

- 「真に戦える実効性ある部隊の創造」
- 「地域等との連携」
- 「人間力の強化」

発行：北部方面總監部広報室



海上自衛隊輸送艦「しもきた」による海上機動（陸演）



対着上陸戦闘（北演）



出動準備訓練（陸演）



対空戦闘（北演）



兵站・衛生訓練（陸演）



対艦戦闘（北演）



システム通信訓練（陸演）

令和3年度陸上自衛隊演習 令和3年度北部方面隊総合戦闘力演習

陸上自衛隊は、9月15日から11月19日まで約2ヶ月にわたり、陸上自衛隊演習は、平成5年以降約30年ぶりとなる、陸上自衛隊の全参加する、令和3年度陸上自衛隊演習（以下「03陸演」という。）に参加した。

方面隊は、03陸演に参加するとともに、本演習と連携して、10月15日から26日までの間、北部方面隊総合戦闘力演習（以下「03北演」という。）を実施した。

03陸演においては、作戦準備段階を重点として、出動準備訓練、機動展開等訓練、出動整備訓練、兵站衛生訓練及びシステム通信訓練を実施するとともに、03北演においては、島嶼作戦における方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演習した。

実施した。03陸演においては、作戦準備段階を重点として、出動準備訓練、機動展開等訓練、出動整備訓練、兵站衛生訓練及びシステム通信訓練を実施するとともに、03北演においては、島嶼作戦における方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演習した。

ついでに演習した。方面隊は、03陸演及び03北演を通じ、作戦準備段階から離島侵攻対処における行動までを演習し、運用の実効性を向上するなど、所望の成果を得て本演習を終了した。

03 陸演

陸上自衛隊全部隊対象の実動演習

令和3年度陸上自衛隊演習

第2師団を基幹とする部隊をもって九州への機動展開等を演練・検証

方面隊は、03陸演として実施された出動準備訓練、機動展開等訓練、出動整備訓練、兵站・衛生訓練及びシステム通信訓練の各訓練に参加した。

本演習は、任務遂行能力及び運用の実効性向上を図り、抑止力・対処力の強化に寄与することを目的として実施された。

出動準備訓練においては、方面隊の全部隊が参加し、駐屯地・分屯地ごとに即応態勢を維持しつつ、防衛出動のために必要な準備を実施した。

機動展開等訓練は、第2師団(師団長 富樫陸

将)を基幹とし、第1特科団(団長 牧野陸将)、第1高射特科団(団長 久保陸将補)、第3施設団(団長 河口陸将補)、北部方面航空隊(隊長 森1佐)、北部方面後方支援隊(隊長 川村1佐)、北部方面通信群(群長 小林1佐)、第1電子隊(隊長 篠田1佐)及び北部方面会計隊(隊長 福岡1佐)が参加して実施された。

本訓練においては、当初、第2師団から他の師団・旅団に警備地区の移行に係る調整を実施し、

各種事態に対する対処態勢を確立した後に、九州の演習場等まで各種輸送手段を活用して機動展開を実施した。訓練指定された駐屯地・間、指定された駐屯地・給食、燃料、宿泊等の通過支援を受け、九州の演習場等まで円滑に機動展開を完了した。

出動整備訓練においては、旭川駐屯地及び東千歳駐屯地において、予備自衛官の部隊編成準備等に関する訓練が実施された。

兵站・衛生訓練においては、北海道補給処等に

03 陸演の概要



支援駐屯地での給油 (山口駐屯地)



機動展開等訓練 (関門海峡通過)



出動準備訓練 (引き継ぎ業務)



出動準備訓練 (補給品の受領)



出動整備訓練 (予備自衛官への被服交付訓練)



機動展開等訓練 (航空機による輸送)



兵站・衛生訓練 (補給品のコンテナからの搬出)



兵站・衛生訓練 (弾薬の梱包)



システム通信訓練 (機動間通信)



兵站・衛生訓練 (患者収容)

03北演 北部方面隊最大の実動演習

03北演の概要



令和3年度北部方面隊総合戦闘力演習

島嶼作戦における方面隊の戦闘力の 総合一体化について演練し、運用の実効性を向上

方面隊は、10月15日から26日までの間、道内各地の演習場及び生地を使用し、方面隊最大の実動演習である03北演を実施した。

本演習は、作戦を主宰する方面隊として、方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演練し、運用の実効性向上を図ることを目的として、島嶼防衛作戦を実施した。

演習は、作戦を主宰する方面隊として、方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演練し、運用の実効性向上を図ることを目的として、島嶼防衛作戦を実施した。

演習は、作戦を主宰する方面隊として、方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演練し、運用の実効性向上を図ることを目的として、島嶼防衛作戦を実施した。

演習は、作戦を主宰する方面隊として、方面隊全体の作戦機能の総合一体化について演練し、運用の実効性向上を図ることを目的として、島嶼防衛作戦を実施した。

方面隊は、本演習において、島嶼作戦における各種行動を現代戦の環境下で演練し、所望の成果を得て終了した。



北部方面隊は、10月16日から26日までの間、03北演の場を活用し、令和3年度方面隊総合直轄部隊訓練検閲を実施した。

本検閲は、北部方面航空隊(隊長 森1佐)、北部方面通信群(群長 小林1佐)、北部方面会計隊(隊長 福岡1佐)及び北部方面音楽隊(隊長 佐藤3佐)の各部隊の練度を評価するとともに、その進歩向上を促進することを目的に実施した。

各部隊は、検閲官要望事項である、島嶼作戦における任務の完了、現代戦環境下における職種能力の最大限発揮、安全管理の徹底を念頭に、各指揮官を核心として一致団結し、有機的な幕僚活動、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の徹底により、職種能力を最大限発揮するとともに、敵のあらゆる脅威に対処して、本検閲における部隊の任務を完了した。

方面總監直轄部隊訓練検閲

航空隊・通信群・会計隊・音楽隊が 練度を向上



演習場秋季定期整備

人員約16,000名 車両約3,500両が参加

方面隊は、11月4日から16日までの間、道内各地の演習場において、北部方面隊演習場秋季定期整備を実施した。本整備は、運用の効



総合戦闘射場羅進路路盤強化(北海道大演習場)



装軌車道新設(矢白別演習場)



戦車射場拡張(然別演習場)



HTC通信基盤拡張(上富良野演習場)



溜め枡(ます)整備(鬼志別演習場)



防火帯整備(北海道大演習場)

各部隊は、装軌車道の新設、総合戦闘射場羅進路路盤強化、HTC通信基盤の拡張、戦車射場拡張等の演習場の機能を拡充する「充実整備」及び防火帯や溜め枡(ます)等、射場・道路付帯設備を整備し、演習場の機能を維持する「維持整備」を整齐と実施し、所望の成果を得て演習場定期整備を終了した。

金メダリスト来道

東京2020オリンピック 柔道金メダリスト濱田1尉を激励

11月16日、方面総監(沖邑陸将)は、札幌駐屯地において、第32回オリンピック(2020/東京)柔道女子78

キロ級で金メダル及び混合団体で銀メダルを獲得した濱田尚里1等陸尉の表敬を受けた。



総監直筆色紙と記念品を受取る濱田1尉

方面隊創隊69周年記念行事

69周年を迎え決意を新たに

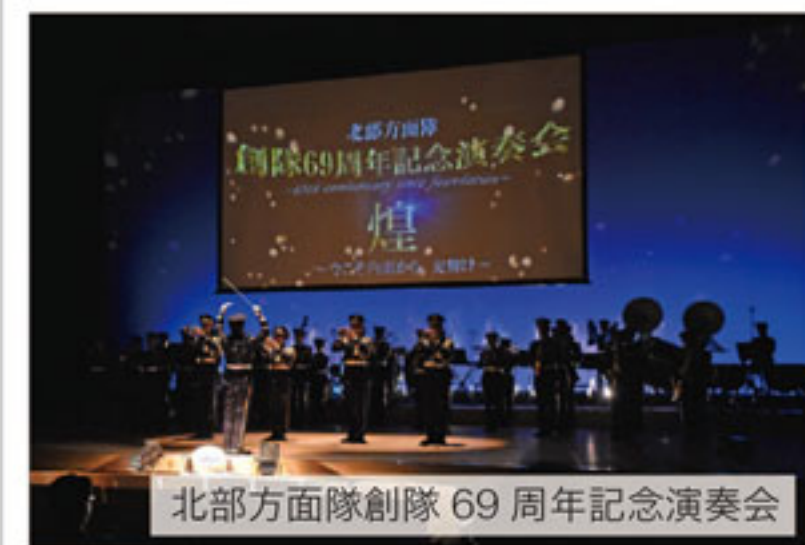
方面隊は、11月26日、27日の両日、北部方面隊創隊69周年記念行事を実施した。今年度の記念行事は、隊務遂行に功績のあった隊員に対する優秀隊員総監招待行事、北部方面隊及び自衛隊に著しい功績のあった個人、団



総監感謝状贈呈式



優秀隊員総監招待行事



北部方面隊創隊69周年記念演奏会



北海道殉職隊員追悼式

感謝状受章者紹介

(敬称略・順不同)

- 【一般功労】
 - ・装研株式会社
 - ・新富良野プリンスホテル
 - ・加藤 剛士
 - ・小林 賢一
 - ・中村 敬
 - ・高田 常夫
 - ・村瀬 優
 - ・八田 力
 - ・斎藤 不二夫
 - ・富山 昇
 - ・加茂 清
 - ・中道 栄一
 - ・宮坂 尚市朗
 - ・高橋 仁
 - ・白井 園義
 - ・廣瀬 勝儀
 - ・佐々木 和好
 - ・小池 英明
- 【自衛官募集功労】
 - ・当別町
 - ・北海道恵庭北高等学校
 - ・北海道札幌工業高等学校
 - ・北海道旭川商業高等学校
 - ・函館市
 - ・北海道土士幌高等学校
 - ・太田 勝彦
 - ・瀬田 克巳
- 【就職援護功労】
 - ・株式会社セノン北海道支社
 - ・千歳市環境整備事業協同組合
 - ・千歳相互観光バス株式会社
 - ・東芝インフラシステムズ株式会社
 - ・電機サービスセンター北海道支店
 - ・北海道旅客鉄道株式会社
 - ・株式会社旭ダンケ
 - ・株式会社菅野組
 - ・社会福祉法人 敬生会
 - ・株式会社コニシ
 - ・広栄メンテナンス株式会社
- 【予備自衛官等雇用功労】
 - ・三喜工業株式会社
 - ・北海道ワイン株式会社
 - ・山春興業株式会社
 - ・株式会社旭川振興公社
 - ・北海道福山通運株式会社函館支店
 - ・株式会社ファイブ

方面隊の歴史

昭和25年	昭和三十二年	昭和四十一年	昭和四十二年	昭和四十四年	昭和四十六年	昭和四十八年	昭和五十年	昭和五十二年	昭和五十四年	昭和五十六年	昭和五十八年	昭和六十一年	昭和六十三年	昭和六十五年	昭和六十七年	昭和六十九年	昭和七十一年	昭和七十三年	昭和七十五年	昭和七十七年	昭和七十九年	昭和八十一年	昭和八十三年	昭和八十五年	昭和八十七年	昭和八十九年	昭和九十一年	昭和九十三年	昭和九十五年	昭和九十七年	昭和九十九年	令和元年	令和二年	令和四年	令和六年	令和八年	令和十年	令和十二年	令和十四年	令和十六年	令和十八年	令和二十年	令和二十二年	令和二十四年	令和二十六年	令和二十八年	令和三十年	令和三十二年	令和三十四年	令和三十六年	令和三十八年	令和四十年	令和四十二年	令和四十四年	令和四十六年	令和四十八年	令和五十年	令和五十二年	令和五十四年	令和五十六年	令和五十八年	令和六十年	令和六十二年	令和六十四年	令和六十六年	令和六十八年	令和七十年	令和七十二年	令和七十四年	令和七十六年	令和七十八年	令和八十年	令和八十二年	令和八十四年	令和八十六年	令和八十八年	令和九十年	令和九十二年	令和九十四年	令和九十六年	令和九十八年	令和百一年	令和百三年	令和百五年	令和百七年	令和百九年	令和百十一年	令和百十三年	令和百十五年	令和百十七年	令和百十九年	令和百二十一年	令和百二十三年	令和百二十五年	令和百二十七年	令和百二十九年	令和百三十一年	令和百三十三年	令和百三十五年	令和百三十七年	令和百三十九年	令和百四十一年	令和百四十三年	令和百四十五年	令和百四十七年	令和百四十九年	令和百五十一年	令和百五十三年	令和百五十五年	令和百五十七年	令和百五十九年	令和百六十一年	令和百六十三年	令和百六十五年	令和百六十七年	令和百六十九年	令和百七十年	令和百七十二年	令和百七十四年	令和百七十六年	令和百七十八年	令和百八十年	令和百八十二年	令和百八十四年	令和百八十六年	令和百八十八年	令和百九十年	令和百九十二年	令和百九十四年	令和百九十六年	令和百九十八年	令和百九十九年															
陸上自衛隊発足	北部方面隊創設	保安隊へ改称	旭川部隊開設	美幌部隊開設	遠軽部隊開設	帯広部隊開設	函館部隊開設	札幌(苗穂)部隊開設	恵庭部隊開設	真駒内部隊開設	千歳部隊開設	警察予備隊創設	昭和三十二年	昭和三十四年	昭和三十六年	昭和三十八年	昭和四十一年	昭和四十三年	昭和四十五年	昭和四十七年	昭和四十九年	昭和五十一年	昭和五十三年	昭和五十五年	昭和五十七年	昭和五十九年	昭和六十一年	昭和六十三年	昭和六十五年	昭和六十七年	昭和六十九年	昭和七十一年	昭和七十三年	昭和七十五年	昭和七十七年	昭和七十九年	昭和八十一年	昭和八十三年	昭和八十五年	昭和八十七年	昭和八十九年	昭和九十一年	昭和九十三年	昭和九十五年	昭和九十七年	昭和九十九年	令和元年	令和二年	令和四年	令和六年	令和八年	令和十年	令和十二年	令和十四年	令和十六年	令和十八年	令和二十年	令和二十二年	令和二十四年	令和二十六年	令和二十八年	令和三十年	令和三十二年	令和三十四年	令和三十六年	令和三十八年	令和四十年	令和四十二年	令和四十四年	令和四十六年	令和四十八年	令和五十年	令和五十二年	令和五十四年	令和五十六年	令和五十八年	令和六十年	令和六十二年	令和六十四年	令和六十六年	令和六十八年	令和七十年	令和七十二年	令和七十四年	令和七十六年	令和七十八年	令和八十年	令和八十二年	令和八十四年	令和八十六年	令和八十八年	令和九十年	令和九十二年	令和九十四年	令和九十六年	令和九十八年	令和百一年	令和百三年	令和百五年	令和百七年	令和百九年	令和百十一年	令和百十三年	令和百十五年	令和百十七年	令和百十九年	令和百二十一年	令和百二十三年	令和百二十五年	令和百二十七年	令和百二十九年	令和百三十一年	令和百三十三年	令和百三十五年	令和百三十七年	令和百三十九年	令和百四十一年	令和百四十三年	令和百四十五年	令和百四十七年	令和百四十九年	令和百五十一年	令和百五十三年	令和百五十五年	令和百五十七年	令和百五十九年	令和百六十一年	令和百六十三年	令和百六十五年	令和百六十七年	令和百六十九年	令和百七十年	令和百七十二年	令和百七十四年	令和百七十六年	令和百七十八年	令和百八十年	令和百八十二年	令和百八十四年	令和百八十六年	令和百八十八年	令和百九十年	令和百九十二年	令和百九十四年	令和百九十六年	令和百九十八年	令和百九十九年

各地方協力本部募集活動 自衛官の魅力を発信、採用活動を強化



女性層へ自衛隊の魅力を発信 「自衛隊ガールズトーク」(旭川地本)



8個の公務員の職場を紹介する就職ガイダンスで自衛隊の魅力を発信「公務員フェスタ」(札幌地本)



募集案内所を函館地方合同庁舎内に移転し、情報発信力を強化「募集案内所移転式」(函館地本)



募集対象者の自衛隊に対する理解を深化「航空機体験搭乗」(帯広地本)

貸費学生 技術分野で活躍するエキスパート

貸費学生は、陸上・海上・航空自衛隊の装備品をハイテク化、国産化する分野で有能な人材を養成するため大学の理学部・工学部又は大学院修士課程の指定する学部を選考する在学学生から選考により採用して学資金を(月額:54,000円)貸与し、その修学を助成するものです。

応募資格	大学・大学院	自衛隊入隊
令和4年4月1日現在、学校教育法による大学の理工学部もしくは工学部の3、4年次又は大学院修士課程に在学する者	令和4年1月29日 合格発表 令和4年4月22日	幹部候補生教育 約1年間
区分	区別	年齢
大学在学者	第3年次	H10.4.2以降 24歳未満
大学在学者	第4年次	H9.4.2以降 25歳未満
大学院在学者	第1年次	H8.4.2以降 26歳未満
大学院在学者	第2年次	H7.4.2以降 27歳未満

採用試験 → 採用決定 → 貸費学生

主要な技術分野

区分	主要な技術分野
陸上自衛隊	装甲車両、誘導武器、サイバー攻撃対処等
海上自衛隊	艦艇水中音響に関する分野等
航空自衛隊	航空機、レーダー、宇宙監視分野等

採用試験: 令和4年1月14日まで

方面隊の活動は、ホームページ及び各種SNSをご覧ください

ホームページ

ツイッター

フェイスブック

インスタグラム

ユーチューブ

次号あかしや776号掲載予定記事
・方面総監、北海道知事、自衛隊協力諸団体の会長及び主要部隊長の新年挨拶
・自衛官募集記事